

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 17日現在

機関番号：32608

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22720046

研究課題名（和文） 経説絵巻の基礎的研究

研究課題名（英文） Fundamental Research on Handscrolls of Buddhist Teachings

研究代表者

山本聡美（YAMAMOTO SATOMI）

共立女子大学・文芸学部・准教授

研究者番号：00366999

研究成果の概要（和文）：

中世日本で、経典に基づく詞と絵を備える絵巻が果たした絵画史上の役割を、作品調査に基づく詞と絵、また典拠経典の分析を通じて考察した。本研究期間内に計11件の作品調査を実施したほか、写真などを用いた画像資料の収集を行った。その結果以下の三点に関する新知見を得た。(1)鎌倉時代の絵巻に描かれる閻魔王庁の場面には、『白宝口抄』などに掲載される図像や経説からの影響が濃厚であり、経説絵巻と密教図像集との制作環境の近さがうかがわれる。

(2)唐末～宋代にかけての作例が残る「十王経図巻」の図像からの影響は、13世紀後半の日本における作例である聖衆来迎寺蔵「六道絵」（掛幅）にも痕跡をとどめており、絵入りの経巻は中世日本の仏教説話画の図像的淵源のひとつであった。(3)従来、経説との関わりについては等閑視されてきた「伴大納言絵巻」の図像分析を通じ、同時代の「六道絵」をはじめとする浄土教絵画と共通する図像パターンについて指摘した。以上の成果の一部は、「聖衆来迎寺蔵「六道絵」閻魔王庁幅と焰魔天図像」（『共立女子大学文芸学部紀要』58、2012年）、「鳥羽炎魔天堂の場と造形」（『仏教美術論集4 図像解釈学—権力と他者』、竹林舎、2013年）などの出版物として公刊している。

研究成果の概要（英文）：

This project concerns the functions of medieval Japanese handscrolls that are based on Buddhist teachings (Kyōsetsu emaki). I analyze their texts and images, as well as related Buddhist sutras. During this research period, I examined a total of eleven works and collected materials such as photographs for other examples.

As the result of my investigations, I discovered the following three points. (1) Kamakura-period depictions of King Enma's Court are deeply influenced by Esoteric Buddhist art collected in *Mikkyō-zuzō-shū* such as "Hakuhōkushō." Thus, one can detect a relationship between the production of these handscrolls and the formation of Buddhist iconography. (2) Influences from the illustrated scrolls of the *Ten Kings Sutra* (there are several surviving copies from the late Tang to Song dynasty) are clearly observed in the hanging scroll of the Six Realms at Shōjuraigoji temple. From this connection, one can conclude that illustrated Buddhist sutras were one of sources of iconography (an image repository) for handscrolls in medieval Japan. (3) *The Ban Dainagon emaki* shares the same iconographic pattern with Pure Land Buddhist art such as those representing the Six Realms. This last point has been overlooked in previous scholarship.

Portions of this research have been made public in publications such as "King Enma's Court in the Six Realms Paintings of the Shōjuraigoji Version : Influences from the Mandala of Yamaraja (*Enma-ten Mandala*)" *Kyoritsu joshi daigaku Bungei gakubu Kiyō*, 58, 2012. "Site-specific and Art of the Enma-ten hall in the Toba Imperial Palace" *Bukkyo Bijutsu Ronshu*, 4, Chikurinsha, Tokyo, 2013.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2012年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：日本中世絵画史 絵巻 仏教説話画 経典 やまと絵 六道絵 病草紙 十王図 閻魔天 九相図 浄土教絵画

1. 研究開始当初の背景

日本の絵巻の発生要因の一つとして、大陸から輸入された絵入経巻からの影響が有力視されている。しかし、奈良時代に成立した「絵因果経」を除くと、経巻と絵巻を直接結びつける作例は皆無で、絵巻の原初の形態を知る手がかりは乏しい。また、従来の研究では仏教絵画と絵巻における図像の共有といった観点については十分に議論がなされてこなかった。そこで本研究では、絵入りの経巻から派生した絵巻の形態を継承する作品群として、中世の経説絵巻に着目し、仏教絵画と絵巻との接点を探るという着想を得た。

なお、本研究で用いる「経説絵巻」との用語は、『角川絵巻物総覧』（梅津次郎監修、角川書店、1995年）の分類に基づくもので、経典に由来する詞や絵を備える絵巻群を指す。十二世紀から十三世紀にかけて集中的に「地獄草紙」「餓鬼草紙」「病草紙」「阿字義」「観音経絵」「法華経絵」「善財童子絵」などの作例が残る。上記作例の詞と絵は、経典の抄出や訓読といった漢文翻訳の過程を経て作られており、そこからは日本における外来文化受容の具体的様相も浮かび上がってくる。

研究代表者は、これまでにも、従来典拠不明とされてきた「病草紙」が『正法念処経』に基づくことを指摘するなど、経説の絵巻化という課題に継続して取り組んできた。本研究課題は、その視点を発展させたものである。

2. 研究の目的

以下の四点に関する考察を軸とした。(1) 経説から絵巻が生成するメカニズムの解明。絵巻における経文利用のパターンを分析することで、絵巻の発生要因の一端を解明することを目的とした。日本における絵巻の展開については、物語絵や縁起絵を軸に論じられる場合が多いが、経巻から絵巻へという異なる視点から再検討することによって、中世絵画の図像的淵源に迫ることも目指した。(2)

鎌倉時代における絵巻の様式史的「空白期」を埋める。メトロポリタン美術館蔵「観音経絵」(1257年)などの年記作例に着目し、基準作例の少なさが障害となっている、鎌倉時代の絵巻様式に関する考察の進展を目指した。(3) 経説絵巻そのものの機能の解明。経説絵巻は、他の主題に比べて現存作例が少なく、制作時期も中世前半までに集中している。このことは、経説絵巻の用途にも結び付くと考え、法会での説法や唱導などとの関わりを視野に入れた考察を行った。

以上の考察の基盤とすべく、経典に基づく詞と絵を備える12～13世紀の絵巻30件程を中心に、画像データの集積を行った。また、特に研究上の重要度を認める11件については、作品調査と撮影を実施、画像データの充実ははかることを目指した。上記の作業を通じて得た成果を、学会発表や学術論文として報告し、さらに研究期間後は、本研究で収集した画像データを集成した出版物として公開し、今後の経説絵巻研究に供することを最終的な目的とした。

3. 研究の方法

三年間の研究期間を通じて、鎌倉時代を中心とする30件ほどの現存作品につき、その詞書と絵を所依経典と対照し、経文の抄出・訓読・絵画化などの過程を経て絵巻が生成するメカニズムを分析した。そのうち重要作品については作品調査を実施した。特に、先行研究の蓄積も多く、考察に十分な時間をかけることが必要な法華経・十王経関連の作例や、研究代表者による研究の蓄積がある九相観や六道信仰に基づく作例を中心に調査を行った。

基礎的作業として、既存のカラー写真の収集を行い画像資料の充実につとめた。写真に関しては、各作品所蔵先や研究機関保有4×5ポジフィルムを活用した。これに加え、三年間の研究期間で合計11件の作品調査・撮影

を実施した。新規撮影に際しては、画像資料の構築と利用の面でより適した高精度（1200万画素クラス）デジタル一眼レフカメラによる全図・部分図両方の撮影を行った。さらに、特に重要な作例で、これまでに4×5ポジフィルムによる撮影が行われていない作品については、撮影技師の協力を得て新規撮影を行い、高精細画像の保存や出版への利用に備えた。収集した画像資料の一部は既に成果刊行物において公開しており、本研究完了後に全図・部分図のカラー図版を完備した刊行物として公開する予定である。

4. 研究成果

2010年度は、下記3件の作品調査・撮影を実施した。①「法華経絵」1巻（香雪美術館蔵）、②「観音経絵」1巻（メトロポリタン美術館蔵）、③「北野天神縁起絵巻」5巻（メトロポリタン美術館蔵）。さらに、①②の比較対象として掛幅「観音経絵」（本土寺蔵）、③の比較対象として掛幅「六道絵」（聖衆来迎寺蔵）に関する展覧の機会を得、共通する図像の分析を行った。また、上記の調査を通じて、部分図を含む詳細な画像データを蓄積した。また、既存の高精細画像（4×5ポジなど）も入手しそのデジタルデータ化を行い、データベース作成の準備を整えた。その結果、作品調査③を通じ、元来縁起絵巻の古例としての関心が高かった「北野天神縁起絵巻」に、漢文の原典を訓読した上で詞書を作成し絵巻化するという、経説絵巻にも通じる特性があるという新たな着眼を得た。また、承久本「北野天神縁起絵巻」（北野天満宮蔵）と「北野天神縁起絵巻」（メトロポリタン美術館蔵）には、経説に基づく六道絵を盛り込む前者と盛り込まない後者という大きな違いがあり、両絵巻における典拠テキスト選択の理由を分析することが、今後の課題のひとつとして浮上した。

2011年度は、下記3件の作品調査・撮影を実施した。①「地獄草紙」断簡（シアトル美術館蔵）、②「北野天神縁起絵巻（弘安本）」断簡（シアトル美術館蔵）、③「天地院縁起」（シカゴ美術館蔵）。さらに、①の比較対象として「地獄草紙」（メトロポリタン美術館蔵）、②の比較対象として「北野天神縁起絵巻（弘安本）」（東京国立博物館蔵）及び「北野天神縁起絵巻」（防府天満宮蔵）に関する展覧の機会を得た。上記の調査を通じて、部分図を含む詳細な画像データを蓄積した。また、既存の高精細画像（4×5ポジなど）も入手しそのデジタルデータ化を行い、データベース作成の準備を整えた。以上を踏まえ、経説を絵画化する場合の絵巻と掛幅における場面選択や表現上の差異に関して、前年度から引き続き『法華経』と『十王経』を軸に考察した。その結果、掛幅「六道絵」（聖衆来

迎寺蔵）における「閻魔王庁幅」のモチーフに、『白宝口抄』など密教図像集からの影響が濃厚であり、その表現が鎌倉期の絵巻にも継承されているという新知見を得た。加えて、平安時代を通じて密教的なコンテクストにおいて信仰されていた閻魔天の属性が、鎌倉時代に至り浄土教的な閻魔王信仰と混交する現象について、経文と画像の双方から考察を進め、「北野天神縁起絵巻」（メトロポリタン美術館蔵）に登場する閻魔王には、その両方の属性が看取されるという分析結果を得た。

2012年度は、以下5件の作品調査・撮影を実施した。①「病草紙」3面（九州国立博物館蔵）、②「九相図巻」1巻（九州国立博物館蔵）、③「九相詩絵巻」1巻（九州国立博物館蔵）、④「浄土宗過去帳」1冊（チェスタービーティライブラリー蔵）、⑤「西大寺縁起絵巻」1巻（岡山県・西大寺蔵）の熟覧を実施した。特に①②③においては、高精細の部分写真を集積し、絵画様式を分析する上で大きな収穫となった。以上の調査で得た材料に基づき、典拠経典と絵巻詞書と絵画面の対応関係に関する分析、経説と仏教説話との接点に関する分析、中近世絵巻における中国版本利用に関する分析を行った。また、本研究課題の成果公開・普及の一環として、一般誌に以下の論考を寄稿した。①死への想像力—九相図がつなぐ、過去と現在（『芸術新潮』2012年10月号、新潮社）、②六道の情景—「地獄草紙」「地獄草紙」「病草紙」（村重寧監修『別冊太陽 日本のあるところ 201 やまと絵』、平凡社、2012年10月）。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

- ① 山本聡美、経から絵巻へ—経説絵巻の詞と絵、説話文学研究、査読無、48巻、2013年、10-21
- ② 山本聡美、Food for Good or Evil: Buddhist Precepts and Food as Depicted in Medieval Japanese paintings、共立女子大学文芸学部紀要、査読無、59巻、2013年、1-14
- ③ 山本聡美、聖衆来迎寺蔵「六道絵」閻魔王庁幅と焰魔天図像、共立女子大学文芸学部紀要、査読無、58巻、2012年、1-18
- ④ 山本聡美、九相図にはなぜ女性の死体が描かれるのか、Kotoba、査読無、4巻、2012年、90-93
- ⑤ 山本聡美、階層化された地獄—聖衆来迎寺蔵「六道絵」地獄幅四幅および閻魔王

序幅の構図をめぐって一、共立女子大学
文芸学部紀要、査読無、57巻、2011年、
109-124

〔学会発表〕（計8件）

- ① 山本聡美、仏教説話としての「伴大納言絵巻」、後白河院と絵巻研究会、2013年6月9日、共立女子大学
- ② 山本聡美、The Ban Dainagon emaki as a Buddhist Parable、2013 Association for Asian Studies Annual Conference、2013年3月24日、米国・サンディエゴ・マンチェスターグランドハイアットホテル
- ③ 山本聡美、The Shuhanron emaki in the Collection of the Bibliothèque nationale de France: Buddhist Precepts and Food as Depicted in Medieval Japanese Paintings、Moving Art between East Asia and the West、2013年3月18日、スイス・チューリッヒ大学
- ④ 山本聡美、Food for Good or Evil? Buddhist Precepts and Food as Depicted in Medieval Japanese Handscroll Paintings、the lecture series in the Seattle Asian Art Museum “Food and Faith in Japan”、2012年2月9日、米国・シアトルアジア美術館
- ⑤ 山本聡美、経から絵巻へ—経説絵巻の詞と絵、説話文学会、2011年12月17日、京都女子大学
- ⑥ 山本聡美、経説絵巻の発生と展開、名古屋大学美術研究会、2011年12月11日、名古屋大学
- ⑦ 山本聡美、聖衆来迎寺蔵「六道絵」—成立／受容の場、「観衆論」的視座に立脚した比較美術史の試み—鑑賞現場の演劇的諸相研究会、2010年11月13日、上智大学
- ⑧ 山本聡美、地獄にほとけ、町田市立国際版画美術館「救いのほとけ」展講演（掛幅縁起研究会との共同企画）、2010年11月6日、町田市立国際版画美術館

〔図書〕（計2件）

- ① 山本聡美、他、竹林舎、仏教美術論集4 図像解釈学—権力と他者、2013年、461
- ② 山本聡美、他、エディシオン・トレヴィル、松井冬子展 世界中の子と友達になれる、2011年、191

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山本聡美 (YAMAMOTO SATOMI)
共立女子大学・文芸学部・准教授
研究者番号：00366999